

舞台は世界だ!

Go! Global

2014 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.3



**KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL**

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

マレーシア・シンガポール 教育視察旅行 (2015年2月8日～13日実施)



今回初めて、保護者の皆様4名と共にマレーシア、シンガポール両国を訪問しました。目的は保護者の方々に東南アジアの教育や社会の実情を知っていただくこと、そして、グローバル教育を目指す本校が今後留学先として検討するための教育視察です。大都会クアラルンプールやシンガポール、イスカンダル計画で急発展中のジョホールバルなど、東南アジアの勢いに圧倒され、多民族国家ならではの様々な文化に感動し続けた研修でした。

訪問した international school 3校 (NILAI, MAZ, NEXUS) はすべてケンブリッジ・カリキュラムを導入しています。イギリス式の格式のある授業を行っており、ICT 教育環境やプールなどの施設も充実していました。何よりも躰の厳しさと生徒の積極性が印象に残っています。NILAI には現在 8 名の本校生徒が留学をしていますが、他の 2 校も留学やサ

マーキャンプなど、本校生徒が参加できるプログラムが充実していました。

また、公立学校 SMK Seafeld Secondary School も訪ねましたが、高校生の流暢な英語による案内、すれ違う生徒たちの礼儀正しく笑顔に溢れた挨拶、教職員・保護者・生徒など学校を挙げての盛大な歓迎、すべてが素晴らしいものでした。施設などの面では厳しい環境の公立校ですが、その教育力の高さは今回の研修で最も強く印象に残っています。

大学は、APU (Asia Pacific University) と Newcastle University Medicine Malaysia の 2 校を訪問しました。様々な国籍の学生が集う両校。IT

に特化した教育環境を整えている APU、最高の医療技術が学べる Newcastle、ともにマレーシアトップクラスの大学です。APU では、日本人留学生 2 名から実際に話を聞かせてもらいましたが、将来を見据えて高い目的意識を持って学ぶ姿に大いに感心しました。

マレーシア、シンガポールは日本との時差が 1 時間、年間を通して気候も安定しています。多民族国家であり、宗教や服装、料理にも民族の特色が見られます。様々な民族の生徒と普段から一緒に学ぶことで得るものは大きいことでしょう。現在留学中の生徒たちが、この貴重な経験を通して大きく成長し活躍してくれことを楽しみにしています。そして今回の研修が、保護者の方々にとって、グローバル化社会を意識してお子様と将来について話をするきっかけとなることを願っています。

マレーシア教育視察旅行に参加して 3年保護者 皆川 江里子

「マレーシアは多民族・多宗教の国なので、尊重し合い、融合している。同化ではない。」現地ガイドのこの言葉がとても印象的でした。本校教育方針にある「一人ひとりにはかけがえのない存在である」「他の人の存在や人格を互いに認め合う」と通じるものがあります。

子供に何か海外経験の機会があればと思っていたところ、今回の「マレーシアターム留学」は、英語に苦手感のある息子にとってまさにぴったりのプログラムでした。今回の教育視察旅行で留学 1 ヶ月後の彼に会えたのですが、先生方や寮のスタッフが、生徒一人ひとりの性格をよく理解し丁寧に接してくださっており、送り出した親としてもとても安心しました。子供たちが『平和をつくる人』として、大きく成長して帰国することを期待しています。

2年保護者 深瀬 禎光

今回「マレーシア教育視察旅行」に参加しました。我々の世代は留学先といえば「欧米」というイメージがありますが、日本と経済的にも結びつきの強いマレーシアで異文化体験と語学習得が可能ということを今回の視察で実感できました。対日感情も良好で(現地校の歓迎にはびっくり!)、経済成長により街の発展も著しく、就学環境面も費用面も十分に留学先の選択肢になり得ると感じました。

学校で様々なプログラムに参加できる今の生徒たちを、ドメスティック世代の一員としては誠に羨ましく思う一方、これからの時代、どんな仕事でも外国との縁は避けて通れないことは間違いなく、親としては積極的に異文化体験、語学習得に取り組んで欲しいと改めて実感しました。

2015年度英語教育に関する取り組み

～ネイティブ教員による授業を多く取り入れた授業展開～

2015年度、本校では6人のネイティブ教員が英語の授業を担当します。これからの英語力は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能が求められます。グローバル化社会で活躍するためには、この英語の4技能をツールとして獲得することが必要不可欠です。

本校の英語の授業は、低学年からネイティブ教員による授業を数多く展開し、10年後、20年後の社会を生徒たちが生き抜くための英語コミュニケーション能力を獲得して行きます。

また高等学校においても、4年生(高校1年生)の英語会話では1クラスを4人の教員(ネイティブ教員2人・日本人教員2人)で担当して、より発話の機会を増やしたり、6年生(高校3年生)ではネイティブ教員2人によるチーム・ティーチングでの英作文の授業[English Writing]を開講したりと、特色のある授業を展開しています。

学年	クラス	週の授業時間数 6 時間の内訳 ①はクラス単位で授業 ②はグレードによる習熟度別授業					
		1	2	3	4	5	6
1年生	全クラス	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT
	S グレード	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	② ネイティブ教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員
2年生	AB1 B2C グレード	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員
	S グレード	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	② ネイティブ教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員
3年生	AB1 B2 B3C グレード	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員
	S グレード	① ネイティブ教員と日本人教員の TT	② ネイティブ教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員	② 日本人教員

校長先生の メッセージ



関東学院六浦中学校
・高等学校
校長 黒畑 勝男

10年後、20年後の世界を想像することは難しいです。しかし、関東学院六浦は、子どもたちの未来への備えを金沢八景から眺める海の方こうを見つめて考えています。

それは大きく4つ。

1. ASEAN 諸国が猛烈な勢いで経済発展すること。
2. 日本は今まで経験のない少子化が加速すること。
3. ICT と人工知能の発達で、働き方や労働のあり方が想像以上に変化すること。
4. 地球環境の保全が絶対的で普遍的なテーマになること。

どれも大きな課題だからこそ、地球規模に視野を広げて生き方を考え、将来を見つめることが大切。教育姿勢の機軸もそうなるべきと考えています。

より若いうちに、より感受性が鋭くて柔らかなうちに、挑む力を伸ばす教育へのチャレンジ。自分の可能性を見つめるための実践の場と時が、強化される英語教育を背景に、中高一貫の発達段階を考えたプログラムになっています。

